

大阪市発達障がい者就業支援コーディネーター事業

事業概要

発達障がいに関する専門知識を有し、かつ、就業支援サービスの提供もできるコーディネーターを大阪市障がい者就業・生活支援センターに配置し、市内在住の発達障がい者を対象として、必要となる就業支援サービスを提供するとともに、発達障がい者就業支援コーディネーターを起点として必要な支援機関と結び付け、チームで就業等を支える体制を構築する。

1 平成28年度進捗状況（4月～12月末）

平成27年度に引き続き当該事業への相談者のうち、就労を希望するものの、就職や職場への適応が困難で2次的障がいを発症した人など、日常生活又は職業人として困難をきたしている人に対し、エルムおおさかとの連携等による医療支援・発達支援・就労支援等を通じて日常生活面の安定から就労に向けた一貫した支援を展開する。また、発達障がい者支援センターと連携し、発達障がいがある学生及び学生支援者向けに「就労準備支援」を展開するとともに、専修学校等の学生・進路指導者向けに「発達障がい理解」「障がい者就労支援に関する社会資源の活用」についての「出前講座」を実施するなど、就労に向けた課題整理と対応の工夫を知る機会を提供することで、職場環境への適応困難などを予防につながるよう取り組みます。

（エルムおおさかと連携した講座や就労準備支援については、資料1 28年度発達障がい者支援センター事業報告を参照のこと。）

（1）就労希望者に対する発達支援・就業支援

【目標①】相談から就職準備プロセスへの移行：20人以上

- ・H28年12月末 41人（新規相談者54名中）
- ・相談では障がい者就労支援や制度、実際に企業で働いている発達障がい者の状況などの情報を提供し、支援を活用する選択肢の存在を伝える。
- ・情報収集のみを希望して相談に来る相談者や、障がい者就労支援を活用する必要性を感じない相談者は初回相談で終了している。
- ・訓練施設の見学・体験、職場見学・体験実習と終了後のフィードバック、障害者職業センターの職業評価などを通して本人に就労準備の必要性に気付いてもらえるよう関わりを重ね、就労準備プロセスへ移行する。
- ・学校在学中（卒業数か月前）から先生や医療、区役所等とともに関わり、卒業後スムーズに就労準備プロセスに移行できるようにする。

【目標②】就職者数：実人数20人以上

- ・H28年12月末時点の就職者数27名（平成27年12月末は26名）

【目標③】職場定着・職場復帰支援：実支援人数10人以上

- ・受け入れ企業に対し、障がい特性や支援方法の伝達、ハード・ソフト両面からの職場環境の整備、社内支援のキーパーソンとの理解共有に向けた調整、職場内環境変化等による職場適応課題への対応などを実施した。
- ・職場定着支援の対象者 92名（平成27年度 117名）
職場訪問（延べ回数）65回（平成27年度 75回）
職場訪問（実支援人数）22名（平成27年度 24人）

(2) 将来、企業への就職を希望する、発達障がい(疑い含む)のある学生等に対する発達支援・就労準備支援

【目標④】 就労準備支援講座の参加者数：10人以上

- ・ 在学中の発達障がいがある方及び学生支援者に対し、自己理解等の講座や「しごと体験」等を実施し、後に訪れる就職活動や職場生活の中で生じる課題への対応方法を知る機会を作る等の就労準備支援を発達障がい者支援センターとの連携により実施する。
(資料1-3「発達障がいがある学生の就労準備支援事業」参照)
- ・ 専修学校等へ「発達障がいの正しい理解と適切な対応」「社会資源の活用」等についての出前講座を実施し、在学中の早い段階からの学生支援の必要性や社会資源の利用ノウハウなどを発信する。

開催場所	参加者	参加者数	内容
高等専修学校	在校生・家族・教職員・支援事業者・行政関係者 等	56	・社会資源の活用ノウハウ(福祉サービスの利用方法) ・雇用のための基礎講座(企業での雇用事例を基に) ・学生向け社会資源見学体験会の案内と予約など
専門学校 (計2回開催)	在校生・教職員・福祉サービス事業者	42 45	①学生向け社会資源見学体験会(学生ボランティアについて) ②学生・教職員向け基礎講座(社会資源の利用方法)
福祉サービス事業所(移行)	在校生・教職員・福祉サービス事業者	27	・学生向け社会資源見学体験会(福祉サービス事業所の活動など)
定時制高校	在校生・家族・教職員	57	・教員/保護者のための基礎講座(障がい理解と正しい対応、福祉サービスの利用方法)
府立一般校	教職員	30	・卒業後の福祉サービス活用方法など(社会資源の活用)
市学校園(全て)	教職員・特別支援教育コーディネーター	48	・卒業後の福祉サービス活用方法など(社会資源の活用)
福祉サービス事業所(B型)	在校生・教職員・福祉サービス事業者	13	・学生向け社会資源見学体験会(福祉サービス事業所の活動など)
区民センター	在校生・家族・教職員・支援事業者・行政関係者 等	47	・社会資源の活用ノウハウ(福祉サービスの利用方法) ・雇用のための基礎講座(企業での雇用事例を基に)
福祉サービス事業所(A型)	在校生・教職員・福祉サービス事業者	予定	・卒業後の福祉サービス活用方法など(社会資源の活用)

(3) 発達障がい者の地域就労支援

- ・大阪市内6か所にある地域就業・生活支援センターや就業相談を行う支援機関における就労支援スキルの向上のための後方支援の取組みなど。

実施月	情報共有・検討内容	対象
2016年 5月	コーディネーター事業の内容とその活用（周知）	大阪市内就ポツ7センター
6月	休職と復職を繰り返すケースの対応 医療、職場、支援機関との調整	大阪市内就ポツ7センター
7月	障がい者手帳申請前に使える就労支援について	大阪市内就ポツ7センター
8月	威嚇・暴言・対人依存傾向のあるケースの対応	大阪市内就ポツ7センター
9月	困窮者支援との連携について 事例報告	大阪市内就ポツ7センター
10月	会社に不満を訴えるケースへの対応	大阪市内就ポツ7センター
11月	家族に介護が必要になったケースへの対応	大阪市内就ポツ7センター
12月	学生への支援（家族に課題あり） 卒業後にひきこもりにならないよう、 学校、医療、区役所と連携し就労支援 につなぐ動きをしているケース	大阪市内就ポツ7センター

・セミナー等講演会への講師派遣による発達障がい理解の促進

派遣先	対象者	参加者数	内容
職場適応援助者養成研修	職場適応援助者をを目指す者	40	発達障がい者の雇用・支援事例の検討
医療福祉学院 (作業療法士科)	作業療法士科2年生	30	講義「発達障がい者の就労支援の実際」
日本精神神経科診療所協会 児童青少年問題関連委員会	精神科医、教員、心理士、ケースワーカー等	200	シンポジウム「発達障がいを抱える子どもたちのゆくえ」
大阪障害者職業センター			発達障がい者雇用支援連絡協議会（委員として参加）

(4) 発達障がい者の就労支援・発達支援に関する情報の収集、発信

【目標⑤】 フェスタ等への参加企業・機関：50以上

- ・平成28年11月25日（金）開催

テーマ「はたらくを一緒に考えよう（企業の求める人材とは）」

障がい者を雇用している企業（株式会社ユー・エス・ジェイ、サラヤ株式会社）の人事担当者に出演いただき、企業の求める人材や就職までに準備すべきことなどを質疑応答形式で伝えてもらった。

参加者190名 参加団体45団体 参加企業4社

5 今後の展開及び評価検証について

- (1) 出前講座や学生就労準備支援については、学生および学生支援者について、受講者アンケート等を実施し、受講前後の変化・認識した課題の状況などから、事業効果を検証していく。
- (2) 就職につながった者については、支援の成功例（クローズの場合等）・困難例など個別事例を通じた要因分析を行う。